



お客様とジェイテックとの 発展を願って

2021年12月
代表取締役社長
牧 隆

「JT 技報」の創刊にあたり、読者の皆様への思いをここに記したいと思います。

当社は2003年会社設立以降18年の歴史を有しておりますが、一貫して技術力と現場力をベースとして、当初は日本原燃株式会社の再処理事業から、そして今や同社サイクル事業全般において安定運転とコストダウン、そして地元企業との共生を図ることを目指し、大いに貢献できる実力を蓄え実績を重ねてきました。

この技報を通じて、当社が取り組んでいる技術を分かりやすくご紹介する観点から、「技報」という名前ではありますが、次の2点に配慮して作成しました。一つは①学会活動実績のような技術一辺倒の内容ではなく、読みやすい当社の技術紹介に配慮したこと、もう一つは②この技報がWebベースでの紹介を念頭に置いたことです。

①につきましては、当社設立以来、技術への探求心を失うことなく研究開発、学会発表等を行っておりますが、それらの原稿は参考文献として明示するとともに、読者の皆様に少しでも当社の保有技術を分かりやすく知っていただきたいと思っております。

②につきましては、今まさにこの技報をネット環境でご覧になっている方々もおられると思いますが、従来社内向けに発行していた印刷物としてではなく、当社のHPを通じ社外の方々に向けて、当社及び当社の保有技術をより手軽に知っていただけるものと思っております。

当社は日本原燃株式会社の100%子会社であることで、原燃サイクル事業における運転業務や機械、電気、計装などの保守業務に加えて、設計、エンジニアリングなどのカスタマーサービス、更新設備設置工事、技術・訓練センターの開発・運営なども手掛け、種々の関連企業とお付き合いし、地元企業との連携や相互研鑽を含め、プラントライフサイクルのあらゆる場面を通じて、お客様に貢献できる企業でもあります。これらを受けて、原燃サイクル事業以外の事業にも展開を行いつつあり、その展開を原燃サイクル事業へもフィードバックすることで、更なる技術力向上に努めていきたいと思っております。

社員一人ひとりの技術力向上に向けた活動と組織が有する技術の蓄積・継承を行い、『「技術」と「人」で世界を驚かせる ROKKASHO』のビジョンの下、当社固有の技術にも裏付けされたコミュニケーション力をベースに、お客様の発展と当社の躍進に繋がるように、社員一同全力を尽くす所存です。

ぜひともこの技報をご覧いただき、少しでも当社を知っていただければ幸いです。